

特別養護老人ホームふくしあ 開設1周年を記念して昼食会開催

社会福祉法人南富良野大乗会（竹澤喜一郎理事長）が運営する、特別養護老人ホーム「ふくしあ」が5月1日で開設1周年を迎えました。

ふくしあは、家庭において介護を受けることが困難な方に、日常生活上の介護や援助、健康管理、機能訓練などを、「小規模生活単位型」のユニット体制で行う施設で、全ての居室が個室になっており、10人を1つの生活介護単位としたユニットにおいて、在宅に近い居住環境のもとで、

ケアサービスを提供しており、町内外から50名（5月1日現在）の方が入居されています。

5月1日には、開設1周年を記念した昼食会が開かれ、入居者の皆さんが、地域交流ホールに集まり、楽しい昼食の時間を過ごしました。

始めに、石井健治施設長から入居者の皆さんへ「暖かい心での福祉のもと、入居者の皆さんが幸せな生活を送れるように、職員も引き続きお世話をさせていただきます。」とあいさつがありました。

この日のメニューには、エビやホタテ、かぼちゃなど、その場で揚げたての天ぷらが振舞われ、入居者の皆さんは笑顔で味わっていました。

入居者を代表して、大西トシ子さんが、「看護師さんや介護士さんの手厚い介護により、毎日が楽しく過ごすごうができています。」と感謝のことばを述べました。

石井施設長は、「入居者の皆さんは、普段各ユニットごとに生活をしているため、このように一同に会する機会がありませんので、皆さん笑顔でとても喜んでくれて、いい開設記念日になりました。」と話していました。

友好の町として、児童との親善交流事業を行っている沖縄県本部町では、5月12日を「アセロラの日」に制定しています。

アセロラ栽培が盛んな本部町では、およそ20年前から栽培が行われており、アセロラをまちの特産品としてPRしようと、平成11年にアセロラ初出荷の時期に合わせて、5月12日を「アセロラの日」として制定し、町をあげてさまざまなイベントが行われています。

本部町内の各小学校では、毎年「アセロラの日」になると給食にアセロラゼリーが配膳されることから、友好の町である本町の児童にも味わってもらおうと、本部町からアセロラゼリーが贈られてきました。

届いたアセロラゼリーは、さっそく各小学校の給食に配膳され、本部町からの思わぬプレゼントに各小学校の児童の皆さんも喜んで食べていました。

幾寅小学校6年生の教室に取材に伺うと、アセロラゼリーを食べながら、本部町の話で賑やかな給食の時間を過ごしていました。児童の皆さんにアセロラゼリーの感想を聞いたところ、「1年に1回だけとても

今年も友好の町沖縄県本部町から 町内各小学校にアセロラのプレゼント

おいしかった」毎月1回でも食べたい」と笑顔で話していました。

6月の下旬には、恒例の親善交流事業として、本町の6年生が本部町を訪問します。幾寅小学校の6年生の皆さんは、今年2月に本町を訪れた本部町児童の皆さんとの再会を楽しみにしているようで、「早く本部町に行きたい」と話していました。



アセロラゼリーを味わう幾寅小学校の6年生



開設1周年を記念して開かれた昼食会